

第 1 回 宗像市市民文化・芸術活動審議会
会 議 議 事 録

日	時	平成 29 年 7 月 3 日（月）14:30-17:00
会	場	市役所北館 1 階 103B 会議室
出席者	委 員	☒ 古賀 ☒ 原 ☒ 吉田 ☒ 大澤 ☒ 内 ☒ 牟田
	事務局	☒ 磯部 ☒ 大塚 ☒ 愛月 ☐ 白木

1. 委嘱状交付

任期：平成 29 年 6 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで。

2. 文化スポーツ担当部長あいさつ

宗像市市民文化芸術活動審議会委員就任へのお礼。新たな委員も加わっていただき、活発な意見や議論ができることを楽しみにしている。よろしくお願いいたします。

3. 委員・事務局自己紹介

各自自己紹介

4. 会長・副会長の選任

【事務局】会長・副会長を互選により選出する。自薦、他薦はあるか。自薦、他薦がなければ、事務局から推薦したい。会長は【委員】、副会長は【委員】に就任をお願いしたい。
⇒承認

5. 審議事項

(1) 審議会の運営

① 議事録の作成

当審議会の議事録は、「発言者の発言ごとに当該発言の要点を記録する方法」とすることに決定。

② 審議会の公開・傍聴

審議会の会議は、原則として公開することに決定。

(2) 平成 29 年度文化芸術活動事業補助金審査

① 審査方法

事務局から説明

② 補助金審査

《宗像少年少女劇団》

【宗像少年少女劇団】事業内容説明。

【委 員】質疑応答をお願いしたい。

【委 員】現在の団員数、OG 数を教えて欲しい。

【宗像少年少女劇団】昨年度は団員が 23 名、OG が 5 名だったが、4 月に開催したワークショップにより、団員は 26 名、OG は 10 名となった。

【委員】宗像市の子ども達を対象としていると思うが、現状は宗像市の子ども達が参加しているのか。

【宗像少年少女劇団】福津市の子ども達もいるが、宗像市の子ども達が主である。また、対象は小学1年生から中学3年生までとなっていたが、今年度は年長から中学3年生までとしており、高校1年生も参加している。

【委員】指導者の指導技術向上のためにプロを招く等、具体的な計画が決まっていれば教えて欲しい。

【宗像少年少女劇団】当劇団はプロを育成するための劇団ではなく子どもの居場所づくりを目的として設立した劇団であるため、プロを招く計画はない。

【委員】指導者の指導技術は何を以って向上するのか、誰が指導するのか。

【宗像少年少女劇団】既に4人いる演出・ダンス等の指導をしている指導者が、新たに加入したOG指導者を指導する。

【委員】予算書の報償費について「OG指導者交通費」と「2,000円/回×35回×2人分」の違いは何か。

【宗像少年少女劇団】「OG指導者交通費」は新たに加入したOG指導者に支払う交通費と「2,000円/回×35回×2人分」はダンスの指導者に支払う振付料となっている。

【委員】定期公演を行うための経費が含まれているが、補助金がない場合、定期公演を開催できないという状況か。

【宗像少年少女劇団】開催できないことはないが、創立30周年事業として新たな劇をするため、補助金があれば新たな劇のための衣装の補正等、定期公演に関することに使うことができる。

【委員】予算書のチケット収入が12万円となっているが単価を教えて欲しい。

【宗像少年少女劇団】500円にしている。

質疑応答終了、意見交換

【委員】指導者の指導技術は何を以って向上するか、分からなかった。

【委員】予算書に指導者の指導技術向上に関する内容が反映されておらず、活動のための資金の形状しかなかった。

【委員】例えば、コーチングの在り方を教える指導者を入れることにより、今まで作ってきた組織や雰囲気を変える恐れがあると危惧しているかもしれない。そう考えると、新たに指導技術向上のために指導者を加えるのではなく、次世代に引き継ぐことを意識して指導するという可能性もあると思いながら聞いていた。創立30周年が視野に入れている時点で、劇団の存続が危うい訳ではないと思う。

【委員】補助金を申請する目的と予算書の内容が合致しないことに違和感がある。

【委員】創立30周年事業を乗り切るためにも見えるが。

《M. M. S. T》

【M. M. S. T】事業内容説明。

【委員】質疑応答をお願いしたい。

【委員】この補助金を申請したきっかけは何か。

【M. M. S. T】インターネットから情報を得た。宗像市は市の活性化や沖ノ島に関することで、既存のものをこれからどうしていくかという活動をしており、注目していた。今回、新たな創造性のある文化芸術事業を募集している

ということで、地元ではとがった表現の方法をされている我々のような団体も受け入れてもらえるのではないかと思います。

【委員】予算書の収入に記載の市補助金以外の収入では、運営できないのか。

今までこのような活動をしていたのか。

【M. M. S. T】収支を出すことを目的としていない。

【委員】補助金がなければ、全くできない事業のように思えるが。

【M. M. S. T】補助金をいただくと有難いが、補助金がいただけないとしても実現の手段を考えたい。

【委員】今までどのような方を招いた活動をしたのか。

【M. M. S. T】大阪の小劇場で活動されている若者に人気の劇団「柿喰う客」の代表である中屋敷法仁氏や、福岡では劇団「空間再生事業劇団 GIGA」の山田恵理香氏、利賀村（富山県）の利賀演劇人コンクールの優秀賞受賞者等、第一線で活動している方にお声掛けしている。

【委員】事業の目的に「各ジャンルで活躍する芸術家が専門分野を生かした作品制作、また発表を行うことによって、地域市民との創造的な交流を機会とする」となっているが、内容を見ているとコンサートにしか見えない。

【M. M. S. T】加藤里志氏のソロコンサートを基準に展開する事業となっている。どのような展開をしていくかは現在検討している。

【委員】ソロコンサートであれば他の団体も市内で行っており、新たな創造性に欠く。

【M. M. S. T】加藤里志氏のソロコンサートにならないようにすることは理解している。加藤里志氏には、M. M. S. T の演劇の中でサクソフォンを用いて表現していただいたことがある。

【委員】地域住民との創造的な交流や思いもよらない化学反応が加わると支出が膨らむと思うが、予算書にはその費用が記載されていない。計上が難しいということか。

【M. M. S. T】演劇であればワークショップを実施し、多くの人に来ていただけるような仕掛けを考えている。

【委員】今回利用しようとしている自由ヶ丘フォレストホールは収容人数が 60 人規模と少ないため、宗像ユリックスの展示室は広く、高額ではないはずなので、活用しても良いのではないか。

【委員】場所の選定に理由はあるのか。

【M. M. S. T】宗像ユリックスも魅力的ではあったが、音楽家の耳にどう聴こえるかという音を基準に選定している。ヤマハのグランドピアノを置いているホールであったため、このホールを選択した。

【委員】委託料 20 万円の内訳を教えて欲しい。

【M. M. S. T】スタッフの人件費が主となっている。

【委員】報償費の出演料単価が 15,000 円となっているが、募集要項の「講師等謝金の支出に関する基準」を参考にしたのか。

【M. M. S. T】本来であればもう少し費用が掛かるが、募集要項に記載の基準に合わせた。

【委員】本来はこの金額で依頼するような方ではないということか。

【M. M. S. T】本来はこの金額で依頼する方ではない。

——質疑応答終了、意見交換——

【委員】M. M. S. T の活動は数回見たことがあるが、単なるサクソフォンのソロコンサートにならないと思うし、現段階で詳細を言えない事情も理解できる。今までの審議会において、新たな創造性とは何かという議論をしてきたが、

新たな創造性とは何かを申請書や評価の基準として表現できるものではなく、申請された事業の中から新たな創造性を見出すことは我々にも問われていると思う。

【委員】申請書の様式が書きにくいのかもしれない。また、12月が本番であるが、申請書類の提出締切が半年前の6月にしており、これから詰める作業をしていくだろうから、現段階では詳細が決まっていなかったと思う。応募数は多くなかったが、面白い展開がある可能性があり、制度を見直して良かったのではないかな。

【委員】私は安易なコラボレーションには懐疑的である。審査で受けが良いからという理由で、誰が観たいのだろうと思うような内容でコラボレーションと書いてくる団体があるが信用できない。誠実に、今書けることはこれ以上ないのだと思う。

【事務局】様式の検討は必要かもしれない。

【委員】報償費の出演料単価が15,000円となっており、この基準を参考にしているとのことだが、この基準は示さなければならないものなのか。

【委員】備考2に「多数相手の講演や著名人、タレント等の場合は、相手のランク等諸事情を勘案のうえ、その都度決定する」とあるが、これを読んで融通が利くと思うのは公務員の発想だと思う。申請者はこの基準に沿わなければならないと考えるだろうし、これでは無理だと申請を諦めてしまう人がいると勿体無い。募集要項から『謝金の額は、委員則として市が定める基準「講師等謝金の支出に関する基準」を参考にすることとします。』を削除できないか。

【事務局】募集要項に敢えてこの基準を残したのは、今までの審議会で、謝金の妥当な金額が分からない人が参考にできるようにという意見が出たからだが、求められた際に示すようにしても良いかもしれない。

【委員】基準に捉われて、この予算としているのだから罪悪感がある。

【事務局】今年度はこの内容で申請されているので、来年度以降検討していきたい。

【委員】今年度は既に提出されているものを変える訳にはいかないが、次に募集する際に見直しできるように今の議論を要点筆記に残しておいて欲しい。

【委員】報償費のスタッフ人件費を明確にして欲しい。

【委員】補助金で人件費を認めないということは、アーティストの芸術活動を労働と認めていないことに繋がっていないか。芸術活動が労働と認めているか、補助金の在り方が問われていると思う。

【委員】私も地域の芸術活動をボランティアですることがあるが、そこに至るまでの準備や作業のことを考えると、この基準は低いように思う。

【事務局】この報酬については、M.M.S.Tに見直ししてもらっても良いと思う。

【委員】報償費が膨らみ、補助申請額が増えると自己負担も増える。負担できないから、この金額にしようという考えがあったかもしれないので、増額を強制してはならない。

【事務局】M.M.S.Tに聞き取りし、委員各位と相談の上で委員長に一任したい。

審議

【委員】では、審議に入る。宗像少年少女劇団は平均50点を上回っているため、採択か条件付き採択となる。

【事務局】昨年度は「他の類似団体を参考に運営面での努力をすること」と条件付き採択としている。

【委員】条件付き採択をした場合、条件を達成できなかった場合は補助金を交付しな

いということか。

【事務局】補助金を交付しないことになる。

【委員】条件付き採択と参考意見では、強制力が違ってくる。

【委員】枠に対して応募数が少なかったことを考えると厳しいことを言うより、背中を押したい。みなさんとの意見交換をして考えが異なっていると感じたのは、指導者の指導技術向上に関する部分で、私が宗像少年少女劇団に期待していた内容と異なると思ったが、こちらが期待する内容で実施するように強制するものでもないと考えている。審査票に「新たな財源の開拓を検討してはどうか」という意見を書いたが、チケット代、月謝、市の補助金のみで運営するのではなく、周年事業のための寄付金を集める取り組みをすることによって、劇団組織内で完結していた活動を開いていくと考えられる。

【委員】劇団には指導者の指導技術を向上させる方法を明確化することと、新たな財源の開拓を検討することの2つの意見を伝えたい。

【委員】ワークショップの取り組みについては評価するが、定期的に取り組んで欲しい。OG指導者が6人増えたことに安心するのではなく、劇団を存続させるためにも、ワークショップを継続して続けて欲しい。

【委員】今回は採択として、この審議会で議論した内容が伝わるように、意見を明確に伝えたい。では、M.M.S.Tの審議に移る。申請書の差し替えは可能か。

【事務局】各委員からの意見の中に予算区分に関する指摘を踏まえて、予算書の差し替えはお願いしようと思っている。

【委員】予算書は細かい部分の修正も含めて、各委員の意見や審議会での議論を含めて差し替えの指示をして欲しい。次年度は交流が生まれるような企画が見たいという意見があるが。

【委員】その意見は私の意見だが、コンサートの実施のみに見えたので、交流が生まれるような企画の内容を明文化して欲しい。企画が完璧にできなかったとしても、一部が上手くいけば良いのではないか。

【委員】予算書の差し替えと可能性を期待しているということについては、伝えて欲しい。次回の申請時には企画の書き方については、事務局としっかりやり取りしていただくこととし、意見として付す必要はないと考える。特記事項の内容については、一度確認させてもらいたい。2件とも採択とする。公演や活動はできるだけ拝見したいので、事務局からできるだけ、情報をいただけると有難い。

【委員】今後のことだが、参考資料を添付いただいても良いのではないか。審査を補助する資料があれば助かる。

6. その他 なし。